



そしん

第59号



発行/社会福祉法人 素心会
責任者/事務局長 高瀬 尚人
〒259-0103
神奈川県中郡大磯町虫窪 39 番地 1
TEL. 0463-71-1255
レイアウト・印刷 貴峯荘ワークピア



— 全体利用者会議 — グループホーム

グループホームでは年に一度、ホームの全利用者さんが一堂に会する全体利用者会議を開催し、各ホーム間の交流、そして普段の暮らしにおいての要望などの意見交換を行っています。加えて近年、健康に関するプログラムなど取り入れ実施しています。

全体利用者会議の最大のテーマは「ホームで長生き」。一般の住宅である「ホーム」で不自由なく過ごせることが目標です。そのためには生活上必要な筋力の維持、そして病気にかからないことが重要となります。

ホームでは日々の健康チェックとして、朝晩に血圧と体温測定を行っています。そして体重測定を毎月実施し、気になる所見がみられる場合には医師へ相談するだけでなく、定期的に個別指導という形で利用者さんへお体の状態をお伝えし、生活上の改善策などの提案をさせていただいています。今回の全体利用者会議においては、この個々の取組みの成果を発表しつつ、いつまでも健康であることの大切さを皆さんと再確認し、間食や飲酒量の見直し、菌磨き練習、筋力を衰えさせないための運動法などをプログラムに組み込みました。

皆さんの健康に対する意識は非常に高く、一年をかけて減量に成功した方を紹介すると、他の利用者さんからは、「次は自分の番だ!」という頼もしい言葉が飛び交いました。また、今回は、肩こりの予防や関節を柔らかくするストレッチなど、狭いスペースで座ったまま行える簡単な体操を紹介し、皆さんとともに実践しました。後にホームへも訪問し利用者さんへ声かけをするとともに、この運動を繰り返しお伝えしています。関節の柔軟性を保ち筋力を維持することは、転倒や怪我の防止につながり、グループホームで生活をする皆様においては、何より重要なことです。

健康でありたい思いは皆同じ。その気持ちを引き出し、いかに実際の支援につなげられるかが今後の課題であり、大きな目標でもあります。いつまでも皆さんが健康であるように、支援者一丸となり取組んでいきたいと思っております。

地域支援センターそしん 看護師 二宮 ルミ



皆さん真剣に聞いています

◀手作りの紙芝居で難しい話も楽しくわかりやすく聞けました

▶▶普段からしつかり菌磨きで歯のよう

虫窪24番地

むしくほ ニジユウモンパンチ

私には兄と姉がいる。お正月に三人で初詣に出掛けた。お参りしたときに、肝心の鈴を鳴らすのを忘れていた。隣を見ると兄も全く同じで鈴を鳴らすのを忘れていたようだった。おかしくて三人で笑った。兄弟で何気ないところが似ていることが面白かったり、好きなものが一緒だったりすることがうれしいなと思う。家族が集まったときの会話や食事の時間がなによりも楽しく、元気をもらえる。

子供のころはささいなことでもよくけんかをしたけれど、今は三人で出掛けたり会話をするのが増えたように思う。お互いの近況やとりとめのない話題を実家に帰って話すのがとても楽しみであり、私にとって大事な時間である。

地域支援センター そしん

小沢 佳那恵





「おもてなし」について

地域支援センターそしん 山口 健太

去年の9月、私は東京Disneyシーランドで、おもてなしに対する考え方や取組みを紹介する研修に参加する機会がありました。はじめは業種も違うことから、受講するにあたって戸惑う場面もありましたが「お客様に、より良いサービスを提供するためには、新しい乗り物、豪華な装飾などに力を入れるのも重要だが、キャスト（スタッフ）一人ひとりのおもてなしに対する考え方と行動が一番重要でサービスの核である」と聞いて、障がい者に携わる仕事もまったく同じだと考えさせられました。最新の設備が整っていても職員の態度が悪い施設、逆に設備が古くても職員の態度が良い施設では、果たして利用者の立場だったらどちらの施設を選ぶのでしょうか。私たちの仕事はどうしても職員と利用者という言葉に囚われ、職員目線で利用者の物事を判断しがちなところがあるように感じます。利用者に、より良い時間を過ごしてもらう為に、利用者目線でどうサービスを提供すべきなのか、この研修の「おもてなし」を通して改めて考えさせられました。

花だより

●堀八ナコさんについて



堀八ナコさんは聖雪寮に所属されています。日中活動では、学院内のお掃除を担当するすずらんグループで活動されています。御年七十歳をこえながら足取りもしっかりし、体調を崩すこともなく、毎日元気に過ごしていらつしゃいます。聖雪寮内では、進んで職員の手伝いをしてくださり、なかでも布巾やバスタオル等の洗濯物に関しては、堀さんに一任していると言っても過言ではないほど熱心にお手伝いをしてくださるので、聖雪寮の職員は毎日堀さんに感謝しております。また、堀さんはとてもおしゃべりが好きな一面をお持ちで、時間のある時には過去の話から現在までさまざまなお話をしてくださいます。前はこんな職員がいた、どこどこに遊びに行った、これはどの職員が買ってくれた、この人の家族はこんな人がいるなどなど、堀さんとお話していると話題がつきません。記憶力がとても良いそうで、昔の素心会のお話を聞くこともとても楽しく思います。そんな堀さんが、今熱中されていることは毛糸のボンボン作りです。手先がとても器用なため職員が一通り作り方をお伝えすると、たちまち作り方をマスターし色とりどりのボンボンをたくさん作って他の利用者さんや職員にもプレゼントしていただきました。この冬にびつたりのかわいらしいアクセサリーです。これまでも手先の器用さを生かし、縫いものから編みものまで多くのハンドメイド作品を作られ、今年の一月に開催された心創展にも多くの作品を出展されました。これからも年齢に関わらず元氣にお話をして、たくさん作品を作っていただきたいと思っています。

素心学院 支援二課 飯田 沙耶



●小池 勇さんについて



小池勇さんはとても話好きな方です。出勤してきた職員を見つけると駆け寄ってきて、挨拶より先にその日にあった出来事などを長々と話してくれます。その話は寮内での大きな出来事、翌日の予定、愚痴なんだけよく分からない話など様々ですが、聞くのがちよつと楽しみでもあります。職員が帰る時も黙って帰してはくれませんが、当直明けで帰る職員に「このままもう一日泊まりでしょ？（笑）」ととんでもない一言を言ってきたりします。こちらも「勘弁してくださいよ」と返しつつも、疲れを吹っ飛ばしてくれるその冗談にとっても元氣づけられています。

そんな小池さんは現在66歳となりましたが、寮内では率先して職員のお手伝いをしてくださる頼もしい存在です。食事時には配膳車の到着をいち早く知らせ、お茶入れのお手伝いなどをしてくださいます。さらに、職員の食べる時間が無くなるからと他利用者の食器の片付けも手伝ってくださるとも優しい方です。

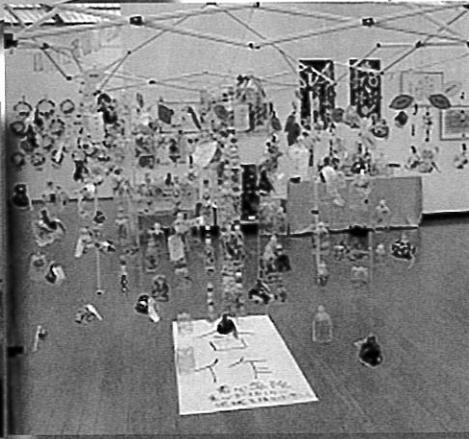
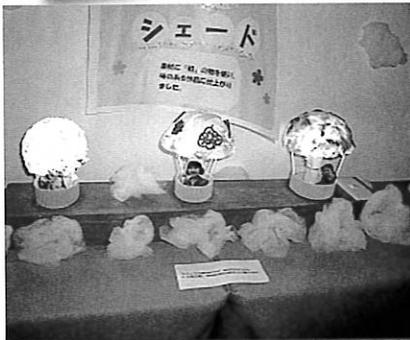
また、音楽が好きで12月のクリスマスイベントではピアノとマリリンバの演奏に聴き入っている様子でした。普段は聴く機会のない生の演奏を楽しんでいたのだと思います。そして待ちに待ったクリスマスプレゼントは新しい音楽プレイヤー。受け取る際の満面の笑みはとても幸せそうなものでした。

これからの毎日色々なことが待っているとありますが、一日一日がより良いものとなるよう支援していきます。と思っています。



素心学院 支援一課 高橋 篤人

心創展を振り返って



今年の1月12日～15日、無事に心創展を開催することができました。今年度は「ハーモニー」をテーマに掲げ、合作や作品作りに取り組んできました。合作ではテーマに沿って音が聞こえてきそうな作品にしようと考え、揺れると音がなるように一つ一つの作品を吊るす形に仕上げました。つるすため、なるべく軽いものがいいだろうとペットボトルに思い思いに絵を描いたり飾りを付けたりしました。完成された作品は、素晴らしさはもちろんのこと、楽しんで時間を掛けて作る方もいれば、数十秒で仕上げた方も、ひたすら同じ色を使うなど、取り組む姿勢から個性あふれるものでした。ペットボトルに描かれた絵や絵画活動で描かれている絵を見ると、その人の普段の様子からは想像できないような絵だったり、逆にその人らしさがあふれる絵だったり、「これは何を描いたの?」と聞くと意外な答えが返ってきたりしてこの人には花火がこう見えるのか、魚がこんな風に見えるんだなあと、その人の見える世界や知らなかった内面を知れるようなそんな気がしました。心創展には今年も沢山の方々が見に来てくださいました。作品を作った利用者たちや、ご家族の方たちは笑顔で観覧をしてくださいました。じっくりと見て回っていかれる方が多く、「どの作品も個性豊かで素晴らしいですね」「また来年も来ます」と声をかけてくださる方もいらつしやいました。その中でも50代くらいの男性の方から「この作品はどういった方が描かれたのですか?」と尋ねられたため、概要を説明すると「なるほど、子供が描いたようには見えなくて、でも大人が描いたように思えないくらい作品の個性が生き生きといて面白いものばかりだったので」と話されていたのが印象的でした。来年もまたどんな作品を見せてくれるのか今から楽しみです。 素心学院支援一課 秋山 華奈

発見ペンシリ

河村佳音様

母 河村理絵様



重い知的障害を持った娘の佳音(かのん)も早いもので21歳となりました。

生後3か月からけいれん発作を繰り返して、成長の遅れを見守りながらの年月でした。

いま素心デイセンターでの活動は、佳音にとってとても心地良く大切な場所のようです。

家で朝ご飯を食べながら、私が「そしんに行くヒトー!」「そしんのバスに乗りたいヒトー!」と問いかけると「ハイ!」と手を上げて元気に出掛けて行きます。

休日でも片手を上げて「出発進行」のポーズで「そしんに行く!」と訴えてきます。(笑)

うつ向いてばかりのイメージの佳音ですが、実は間違えずそしんで過ごす時間を楽しんでいるのです。

そんな姿を見ると、居場所があることのありがたさをつくづく実感します。

また昨年の成人を祝う会では、心温まるお祝いをしていただきました。

佳音の照れくさそうな笑顔を見ることができ、とてもうれしい思い出となりました。



本当にありがとうございます。

これからの食事やトイレのお世話などいろいろとお手数をおかけしますが、引き続きどうぞよろしくお願いたします。

理事会評議員会の動き

第三十四回評議員会 平成二十九年一月十四日(土)

- 一 地域支援センターそしんの公用車購入に伴う車種の選定を承認。
 - 二 素心学院防犯カメラ設置業者の選定を承認。
 - 三 平成二十八年年度第二次補正予算を承認。
 - 四 社会福祉法人制度改革に伴う定款変更を承認。
 - 五 評議員選任・解任委員会運営細則の制定を承認。
 - 六 役員等の報酬等に関する規程の改正を承認。
- その他、神奈川県指導監督報告、地域支援センターそしん施設整備事業の進捗状況、役員賠償責任保険について報告した。
- 第一七三回理事会 平成二十九年一月十四日(土)
一〜六号議案及び報告事項まで評議員会と同じ。

後援会会員募集

- 会費は個人一口、年1,000円から法人・団体一口、年10,000円から
- 会員には、新聞「そしん」をお送りします。
- 行事のご案内などをします。

会費の納入先

銀行振込は
中南信用金庫国府支店
014-0139723

郵便振替はこの郵便局でも
00270-0-19507です。

口座名は
社会福祉法人素心会後援会
会長 鈴野七郎

※新しく会員になる方は
ご住所を電話等でお知らせ
いただくようお願いします。



事務局
〒259-0103
神奈川県中郡大磯町虫窪 39-1
素心会後援会
TEL.0463-71-1255
FAX.0463-73-0009



2017年3月31日、神奈川県共同募金会より190万円の助成をいただき「ホンダステップワゴン」を購入いたしました。車いす乗降リフトを備えており、2台乗車することができます。利用者の高齢化に伴い、より安全に乗降できる車両が望まれておりましたが、外出や通院に大活躍しています。

この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。



素心会 事業所 アドレス

素心学院	神奈川県中郡大磯町虫窪 39 - 1	TEL.0463 (71) 1255 FAX.0463 (73) 0009
素心デイセンター	神奈川県中郡大磯町虫窪 18 - 1	TEL.0463 (71) 1256 FAX.0463 (71) 1284
地域支援センターそしん	神奈川県中郡大磯町虫窪 18 - 1	TEL.0463 (70) 3577 FAX.0463 (72) 2577
さざんかホーム	神奈川県中郡大磯町国府本郷 1308	TEL.0463 (61) 1519 FAX.0463 (61) 1519
ガモめホーム	神奈川県中郡大磯町大磯 1370 - 23 コープKY2F	TEL.0463 (61) 5404 FAX.0463 (61) 5404
つばきホーム	神奈川県中郡大磯町国府新宿 482 - 1	TEL.0463 (71) 0990 FAX.0463 (71) 0990
シーベルホーム	神奈川県中郡大磯町石神台 3 - 18 - 16	TEL.0463 (71) 3878 FAX.0463 (71) 3878